

入選

ぼくをえがおにするまほう

山口県 柳井小学校 3年 山元 俊

「しゅん君、あの歌、いっしょに歌おうやあ。」

ぼくの家では、いつもこんな会話をしています。四さいと六さいの弟たちも、お母さんもおばあちゃんもみんな歌がだいすきです。とくにお母さんは、子どものころからずっと歌を習っているの、とてもじょうずです。

ぼくは、小学校一年生のときからがっしょうだんに入っています。ぼくは、歌はじょうずじゃないけれど、おばあちゃんやお母さんにすすめられて、入だんしました。

たくさんの人前で歌うのはとてもはずかしいし、なかなか歌もうまくなならないし、入だんしたばかりのころは、練習に行くのがとてもいやでした。

「へたでもいいんよ。一生けんめい歌いんさい。」

お母さんは、いつもそう言っていました。

地いきのおまつりや、ほいく園の子どもたちの前で発表するときもあります。とてもはずかしいけれど、お母さんに言われたとおり、へたかもしれないけど、一生けんめい歌いました。お客さんを見ると、みんなえがおで、とても楽しそうに聞いてくれていました。そのえがおを見ると、ぼくもえがおになりました。

がっしょうだんの発表会では、一人で歌ったりおどったりすることもあります。みんなで歌うよりも、もったきと きんちょうします。声がふるえて、うまく歌えないこともあります。でも、一生けんめい心をこめて歌います。すると、知らないおばあちゃんがぼくのところにやってきて、

「ありがとう。とってもよかったよ。」

と言って、なみだをながしながらぼくの顔をなでてくれました。ないていたけれど、やさしいえがおでした。ぼくは、とてもあたたかい気持ちになって、しぜんとえがおになっていました。

家に帰って、お母さんにそのことを話すと、

「一生けんめい歌ったのが、つたわったんじゃね。」

と言ってくれました。お母さんは、とてもうれしそうでした。

がっしょうだんに入って3年がたちます。さいしょはいやになることもあったけれど、今では、週一回の練習がとても楽しみになりました。もったもった、みんなのえがおがみたいからです。

さっきまでけんかをしていた弟たちも、ぼくが歌うとえがおになります。仕事でつかれて帰ってくるお母さんも、ぼくが歌うとすぐにえがおになって、いっしょに歌いはじめます。ぼくの歌は、ぜんぜんうまくないけれど、みんなをえがおにするまほうみたいです。そして、みんなのえがおは、ぼくをえがおにするまほうです。